

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2018.7) 平成29年度:71.

男性看護師が行うケアについて入院患者が抱く印象—女性看護師と比較した調査から男性看護師に求められる看護ケア—

垣野 純輝, 細野 健人, 和田 隼輝, 升田 由美子

男性看護師が行うケアについて入院患者が抱く印象

—女性看護師と比較した調査から男性看護師に求められる看護ケア—

キーワード：男性看護師、入院患者、質問紙調査

○垣野純輝¹⁾，細野健人²⁾，和田隼輝³⁾，升田由美子⁴⁾

1) 旭川医科大学病院 看護部，2) 埼玉医科大学総合医療センター高度救命救急センターICU

3) 社会福祉法人北海道社会事業協会帯広病院 手術室

4) 旭川医科大学

I. 目的：患者が男性看護師からケアを受ける際に抱く印象を、女性看護師と比較し検討する。

II. 方法：A 医科大学病院で男性看護師が所属している病棟に入院中の20歳以上で研究内容を理解し、自分で質問紙調査票に回答できる患者男女合計168名を対象とした。

各病棟看護師長に研究内容を文章および口頭で説明し、研究対象となる患者に質問紙調査票の配付を依頼した。各ナースステーションに回収用封筒を置き、2週間後に調査票を回収した。

井手他¹⁾を参考に男性・女性看護師にケアを受けることに対する印象に関する無記名自記式質問紙調査票を独自に作成し用いた。日常生活援助を中心とした14項目<①コミュニケーション、②移動介助、③検温、④採血や点滴、⑤食事介助、⑥洗髪、⑦口腔ケア、⑧更衣介助、⑨入浴介助、⑩清拭、⑪陰部洗浄、⑫ベッド上排泄、⑬導尿、⑭浣腸>について、1<よくない>～5<よい>の5段階評定により印象の回答を求めた。

データ分析方法：統計処理はSPSS Ver. 22を使用した。Wilcoxonの順位和検定を用いて患者の性別ごとにケアの印象を比較した後、男性・女性看護師別比較を行った。

III. 倫理的配慮：旭川医科大学倫理委員会の承認を受けて実施した(承認番号:15048)。病棟看護師長から患者に文章および口頭で研究内容と倫理的配慮に関する説明後に用紙を配布した。本演題発表に関連して、開示すべき利益相反関係にある企業等はない。

IV. 結果：回収数は129部であり、そのうち無効回答を除外した117部(男性56名、女性61名)を有効回答(有効回答率90.7%)とした。回収率は69.6%であり、平均年齢は男性患者62.5歳、女性患者55.7歳であった。

1. 男性看護師の存在の認識とケアの実施状況
入院する以前にA医科大学病院に男性看護師が勤務していることを知っていたものは68.4%であった。また男性看護師からケアを受けたことがある患者は47.0%であった。

2. ケアに対する評価
全質問の平均点は男性看護師が3.6点、女性看護師が4.3点であった。また質問②以外の質問において男性看護師より女性看護師のケアの得点が有意に高かった($P<0.05$)。男性患者の場合は男性・女性看護

師の全ての質問において3.5点以上であった。女性患者の場合は女性看護師の全ての質問に対し4.0点以上であった。

3. 肌の露出による羞恥心を伴うケア

本研究は質問⑧～⑭が肌の露出による羞恥心を伴うケア(以下、羞恥心を伴うケアとする)としている。羞恥心を伴うケアでは女性患者からの男性看護師への得点は2.6点以下であり、女性看護師に対するケアの得点より低値を示した($P<0.05$)。しかし男性患者では男性・女性看護師のケアの得点に有意差はなく、男性患者が陰部や排泄物を見られるケア(質問⑪～⑬)では男性看護師の方が得点が高かった。

4. 男性看護師への印象

自由記載の回答として、女性患者からは「女性の方がよく気がついて細やかな仕事をする」、「力があって頼もしいと思う」、「男の人なので体に触られるのは嫌だ」など男性患者からは「男性の方が雑だと思ってしまうことがある」「同性の為、悩み事が言いやすい」、「力強く頼りになるが細かいことは女性にかなわない」などの意見があった。

V. 考察：男性看護師は平成24年では63321名で看護師全体の6.2%²⁾と増加しているものの、未だに男性看護師の存在を認識していない患者が3割近くいるのが現状である。

ケアに対する全体的な得点は男性・女性患者共に女性看護師への得点が高値を示したものの、男性患者の男性・女性看護師への得点はすべて3.5点を上回っていた。男性患者は性差なく看護師から受けるケアについて良い印象を抱いているが、女性患者は異性からのケアに抵抗を抱き、男性患者よりも看護師の性別を意識していると考えられる。また、陰部や排泄に関するケアは男性も女性も同性看護師からのケアを受けることを望んでいると考えられる。

VI. 結論：日々のケアを実施する際には患者の意見を尊重し、特に清潔ケアに関しては同性看護師からの援助となるよう調整するとともに、男性看護師はより丁寧にケアを行っていくことが求められる。

謝辞

本研究に当たり調査にご協力いただいた患者の皆様、および看護部の皆様に深謝いたします。

引用文献

1) 井手彩，池嶋未加代，濱田安岐子，北川加代子，大島敏子. 一般病棟における男性看護師のイメージに関する調査. 共済医. 2003;52(3):246-249

2) 厚生労働省. <http://www.mhlw.go.jp/>